

教科指導

授業支援対応表(7月1週)

科目	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)
国語	1	2	3	4	5
算数	1	2	3	4	5
理科	1	2	3	4	5
社会	1	2	3	4	5
英語	1	2	3	4	5
音楽	1	2	3	4	5
体育	1	2	3	4	5
保健	1	2	3	4	5
家庭科	1	2	3	4	5
総合	1	2	3	4	5
特別支援	1	2	3	4	5

※ 学力向上事業に係る授業を優先しています。支援対象者を中心に、授業及び活動内での支援をお願いします。
 ※ ひまわり学級の交流授業(音楽・美術・総合)については、可能な限り対応いたします。
 ※ 特別支援学級(発達障害)・特別支援学級(知的障害)・授業支援員(特別支援)は必ず参加していただきます。
 ※ 生徒の困り感の軽減、研究推進にご協力ください。

●授業支援対応表● (中学校)
 だれがいつ、どの授業に支援しに行くかを表にすることで、事前に、どのような支援が必要なのかを教科担任と連携することができ、具体的な支援につながる。

授業

「みかたカード」の活用

解決の手がかりとなる児童の発言や、教科特有の用語などをカードとして蓄積し、単元内で活用することで、前時の復習や、本時の授業での活用が可能となる。また、このカードが自己の学習を振り返る手がかりとなる。このようにカードを活用することで一貫した授業となり、**学習が繋がっていく。**

児童のノート例

使用例

「みかたカード」をまとめて使用

「昨日は何を勉強したかなあ...?」

家庭学習

●家庭学習●
 次の授業とスムーズにつながるように授業内から課題を出すことで授業と家庭学習をつなげ、児童生徒の興味・関心や思考を継続させる。授業のノートを見れば思考のヒントが得られるという効果もある。

<授業プリント>

うさぎがかめ3

家庭学習を授業と関連させた内容とする。また、Google Classroomでも配信し、質問等もできる。

広島県学力向上推進地域事業の最終ゴールは学力の向上である。学力向上に向け、小学校と中学校が連携して、教科指導と生徒指導の両面からのアプローチが必要である。仁方中学校区では、小学校・中学校で共通の取組を進めている。

仁方中学校区重点取組

教科指導		生徒指導	
小学校	中学校	小学校	中学校
<p>○「習得」のための指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業の流れ」の提示 理由を付けて発言する場の設定「みかた(見方・味方)カード」の活用等 児童の表現様式(数・式・図・言葉)の置き換え指導(ノート、板書、ワークシート等指導) 	<p>「授業の流れ」の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠(体験や既習内容)をもとに理由を付けて発言する場の設定 自分の考えを明確にする指導(ノート、板書、ワークシート等指導) 	<p>○互いに認め合う学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師-児童間、児童間のつながりを意識した取組 	<p>○支持的風土のある学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級目標を意識した取組
<p>「みかたカード」を見たら、勉強したことを思い出せるよ!</p> <p>黙想をしたら、やる気が出るよ!</p>	<p>「授業の流れ」を見ると見通しがもてるよ!</p> <p>自分の割り当て以外の掃除場所も掃除ができれば気持ちがいいよ!</p>	<p>○授業規律</p> <ul style="list-style-type: none"> 着ベル、黙想の徹底 	<p>○無言掃除の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業規律5項目の徹底(着ベル・黙想、あいさつ、姿勢、挙手、返事)
		<p>○異学年交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもたせ、振り返り活動の充実 	<p>○プラスアルファの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の活動にするための「活動中の生徒の姿」の焦点化 縦割り活動の充実

研究主題を達成するために

仁方中学校区学力向上推進地域事業のイメージ図



家庭学習ノートの充実・掲示

家庭学習ノートに教員からの励ましのコメントやアドバイスを記入し、充実した学習内容へと発展させ、学力の向上につながる。また、学習内容を工夫しているノートを掲示することで意欲の向上につなげ、主体性を育む。

自分のがある! また頑張る!

こんな学習をすればいいんだ。

今日は、英・数・社のしけんはんいをしました。がんばりました。

主体的

学習意欲の向上

教師の励ましにより、目的をもたためてをたて、学習内容に変化が見られた。

生徒指導

●無言掃除●
 掃除開始前に掃除場所で整列をし、掃除開始のチャイムとともに黙想を行った後に、掃除を行う。
 きれいにすることだけを目的とするのではなく、その場所を使う人のために思う「思考力」「気配りの力」「思いやりの心」を育む。
 中学校では、割り当て以上の掃除を自ら進んでやることを指導し、それに対する肯定的評価を毎回行う。

「あいつつ 日本一」を目指して

レベル別挨拶4

4	まらふ	大きな声で	目を見て	笑顔で
3	まらふ	大きな声で	目を見て	
2	まらふ	大きな声で		
1	まらふ			

無言掃除前の黙想

●着ベル・黙想・あいさつ●
 時計を確認し、授業準備をしてチャイム前に着席する。チャイムとともに黙想をし、授業の開始を待つ。教師は、徹底して声かけ・指導を行う。
 あいさつをレベル分けし、レベル4のあいさつを目指すよう、声かけ・指導を行う。

授業に気持ちが切り替わらないよ。

●授業研究後の通信・協議シートの配付●
 授業研究後に教職員に通信を配付する。よい点や改善点を、次の授業研究へとつないでいく。小学校では授業者が通信を作成し、中学校ではグループの事後協議の内容をまとめたものを配付する。

●個別のファイルの作成●
 個別のファイルを作成する時間を職員研修の中に仕組み、対象児童生徒の成果物を保存し、変化を見取る。また、ファイルを作成しながら対象児童生徒について共有し、確実に成長をつなげる。
 「思考・表現」の観点で、有効であった手立てや、児童生徒のよい変化を教職員間で共有し、各教科でアレンジして活用し、授業を改善していく。

配付資料例

バトンパス

「次の授業者へのバトン」

- 「みかたカード」を活用して児童と共に授業を創る。
- ブロック操作、数図カード、さくらんぼ計算などの様々な方法で思考し、操作と図、数、式を関連付けて考える。全体交流では、数字は何を指しているのか等、きりかえし発問を行い、理解を深める。(式を読む)
- 自己決定の場で、赤白帽子を用いて、視覚的にはっきり示すことで、発表だけでなく互いの考えを相手に伝える。

家庭教育支援アドバイザーの活用

- ① 授業中における対象児童生徒への支援
 - ② 補充学習での支援 (小学校:火・木・金曜日 中学校:水曜日)
 - ③ 小学校保護者相談会 (学期末の個人懇談会時) ブースを設置し、懇談会の後などに家庭での学習支援方法などをアドバイスする。
 - ④ 児童養護施設との連携 (中学校:連携会月1回、試験期間中に1~2回施設訪問時)
 - ⑤ 教職員に対する支援
 - ⑥ スクールカウンセラーとの連携・情報提供
- 支援した内容を各担任と連携し、小中一貫した指導ができるようにする。小中の学校の様子をお互いに伝える。
- 初めて夏の自由研究を我が子と一緒にできました!
- 学校での様子がよく分かって、声かけの方法が分かりました。